

きょう りゅう

多収米の産地化で持続性の高い農業を目指して!!

強粒 エクスプレス

KYO-RYU EXPRESS



新型コロナウイルス新規感染症が5月8日に季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行し、社会経済活動の正常化に一段と弾みがつく転換期を迎えましたが、昨今のウクライナ危機による生産資材高騰等により、農業情勢は依然として厳しい状況にあります。

多収米部会は、今年で設立6年目を迎え、新品種の導入や資材試験を実施し、栽培技術の研鑽を図ります。田植え作業もピークを控え、これから本格的な農作業は続きますが、慌てずポイントを参考に前年以上の収量アップを目指しましょう。

1. 多収米の作付面積状況

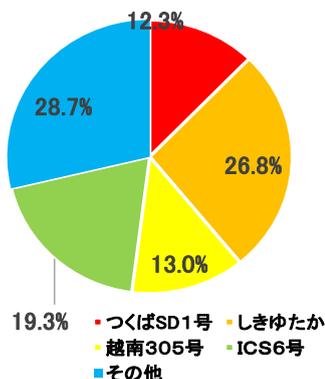
①R5年 多収米面積

(単位:a)

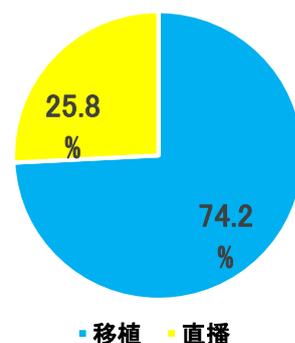
品 種	R5	R4	対比
つくばSD1号	1,855	8,991	20.6%
しきゆたか	4,042	6,449	62.7%
越南305号	1,956	798	245.1%
ICS6号	2,909	1,444	201.5%
その他	4,334	432	1003.2%
合 計	15,096	18,114	83.3%

その他に含む品種:にじのきらめき つきあかり ちほみのり

②R5品種の作付け比



③R5栽培区分比



2. 多収米部会の目標単収

目標単収(アンケート)を集計した結果を右記に記載します。低反収が近年の問題として1番にあがります。多収米の課題は、米価下落や資材高騰が喫緊の課題の現状の中で、収量と所得向上が実現可能かがポイントとなります。秋季に収量増を目指せるよう、作業工程を丁寧におこないましょう。

☆R5年 多収米部会の目標

品 種	移植	直播
つくばSD1号	9.5俵	
しきゆたか	11.4俵	10.0俵
シャインパール	10.0俵	
ICS6号	10.2俵	
ちほみのり	9.8俵	

3. 栽培管理の重要ポイント!

茎数管理



例年、中干しの遅れから過剰生育となり、籾数過剰で粒張りが低下し、減収の要因につながっています。

☆中干し開始の目安

栽培区分	中干し開始のタイミング
移植	移植後35~40日
直播	直播後30~35日

多収米速報は5月下旬より生育調査後に、随時発信!

